うつほ物語　十五、十六

は
15
17

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

は
30
17

東京圖書館

和書門
和文類
別ノ内
函 一
架 一の二
號 ノ二
冊 三の一

貴

宇津保物語

一名はきの木のもと

古本十五の巻

今板本八の巻

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

東圖藏書

故柳原芳雄紀念

伊東藏書

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

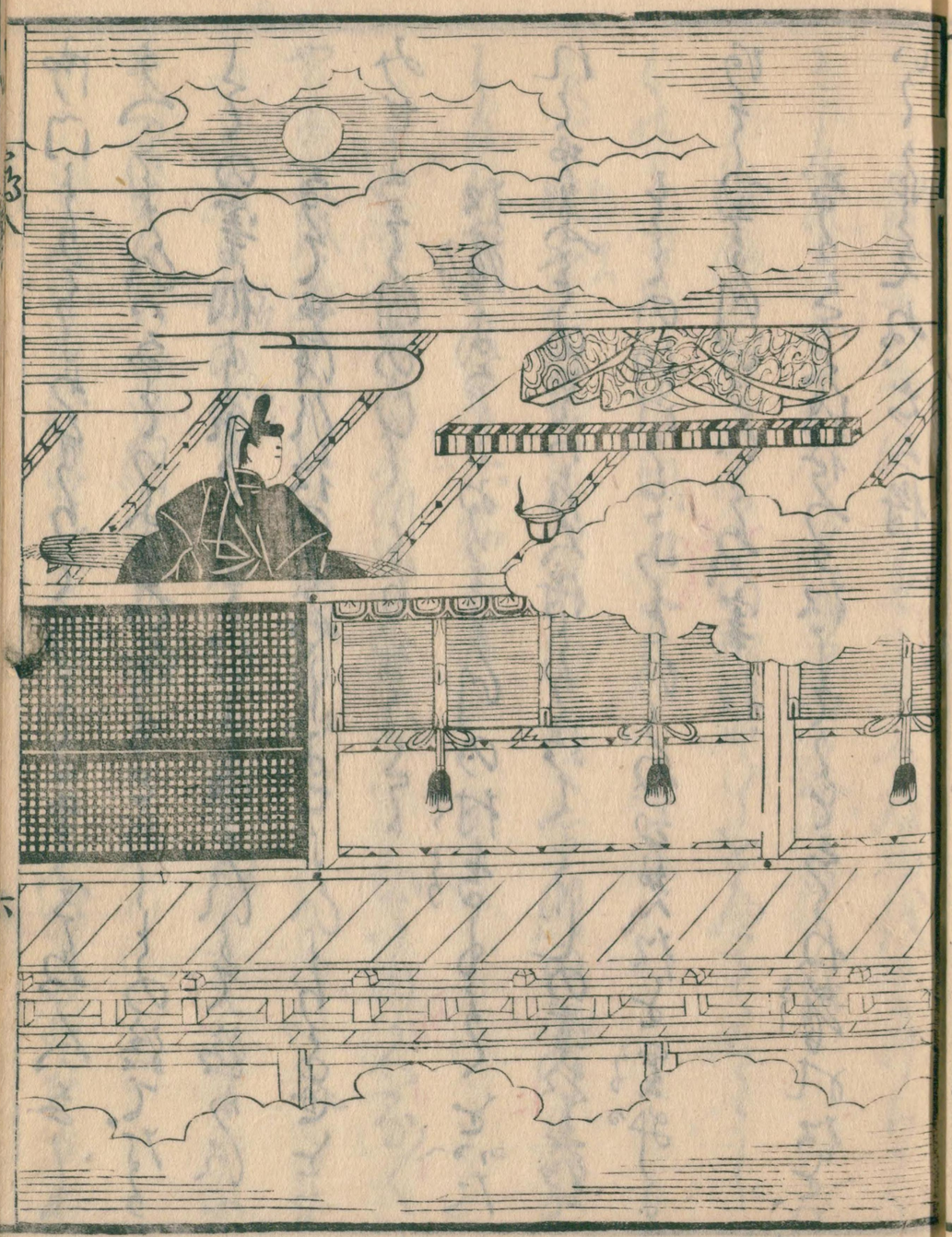
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

あねよりうへをいと平中納言。今
ゐんの源宰相(げんさいしょう)おとゝ
おもてもふれうもをうしりのを
ハ君(きみ)ゝれ文(ふみ)をとゝむ
おもひ濃(こ)いこゝろをいと
の中(なか)ゐり。女一宮(おんないちのみや)源氏(げんじ)の中将(ちゅうじょう)
いせんーおく給(たま)ふこゝろ
のまゝとゝ君(きみ)ゝのみこと。十二
の十三ゝ君をとゝ右(う)の源宰相(げんさいしょう)
ゐりくて。御(おん)こゝろ
うおくゝ下(くだ)ふうまり。人(ひと)
ゐるこゝろをゝ給(たま)ふ。それ
ゐうゝりゝ人(ひと)ゝうゝ
ゐて文(ふみ)ゝりゝこゝろ
給(たま)ふてをもふくこゝろ
れゐるゝゐゝ。ゐし宰相(さいしょう)おとゝ
そゐるくゝゐりゝ文(ふみ)ゝ
ゐんゆゝゐりゝ。
もゝゝゐ。おくゝそゝにゐゝ



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17　　ガラス使用

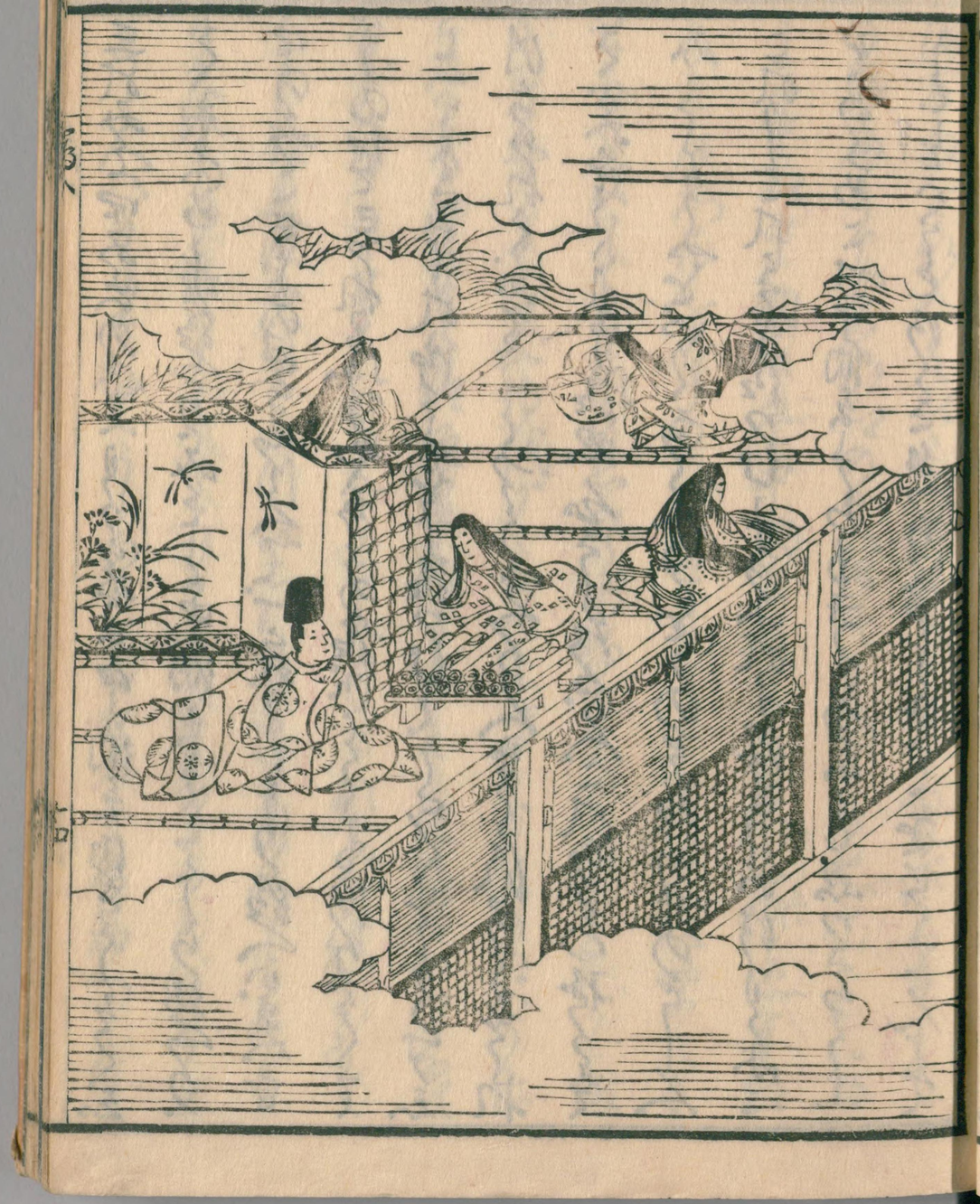
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

ちゝとの人いと不用の人
ともあつまいと毎益宮仕と
辞て同数の人あつまり

よろづの給はせられいるんばつうまつる殿ばら
しやくよ宮つかへ人仕るめるとらうたくしそ
うれんとて年里給つるをみ給て宰相のこと
うて。とうちもの給つるを。右馬頭こと
とうち聞きゝ給て。源宰相うらくたくて。今ぞ
くふうの人ともせそきうちうちを給人をそれは非くことゝもの
もせそく。うちもとうを給人をうらくしくたくて。今ぞ
んと思つゝとうく。世中と無常よ
うく中の実給つう。角の心せそこと。こゝをかゞ
るつゝとるんのちうちうおつまつ宰相中
これとよ宮仕をめそしうちうちを
思人のうれと思つゝこれるりうちもむとうちそ
しまやのの心を見えなる事うちうちを
所よう思給つゝ。世の中よ
ひやのの心を見えなる事うちうちを
給つゝとうやもえとうつゝ
ひ。とうちうちうれる人事をとうやまつ思
給つるよいとうちうちの給つゝ
たくうちうちうちの給つゝ
んやわれとの給つゝ
みつまつのれとうちうちの給つゝ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

と、八月九日のあけぼのに、三日の程とぞ、いふめりし。

と、おぼしつゞけて、御せうそこ、

一君をいかにと申おくさまの御ことの葉

とあるを、十三君、

二

三

四

学士

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17　　ガラス使用

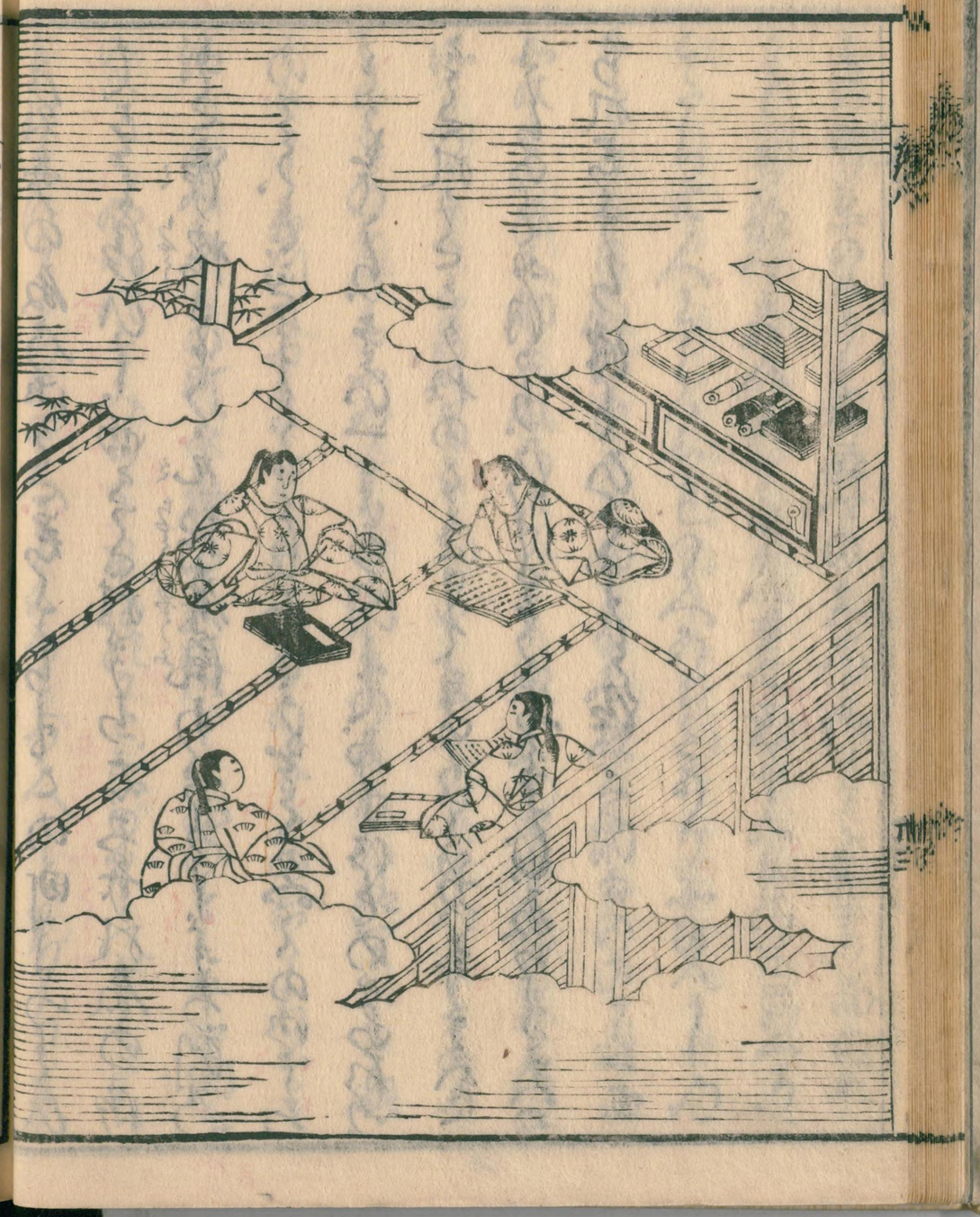
弘賢云 三字衍文カ

○の西方が東のくい違ひ宇津の保のもとゝ

この町、東のやゝ北に或程へのあり。西のかた
へ行ゆくこと、三十六町ばかりにて、又十六町ばかり
ゆきて、人家もつゞきあり。ふのえりの
やゝ北に、大殿の御うつし、西にみあれ木綿を
ふりかけたるやしろ、又十四町ばかりゆきて、二
ばかりのやしろをすぎて、ふのえりのやゝ
てらのものこゝにみえたり。中納言の君のの給ひ、
うつくしげによりてをりのぼるこの君を
給ふ。西みなみの町、中務の宮の女房
のれうと。西北のかたをみやらるゝ中納言
もおはしけるとかや。余

夜半の夜うれうこゝもとの町よりつゝ
てたゝくひゝ。西うつこゝ
うつこゝ浄妙うつこゝ九郎屋風
のでうど。うつこゝ
をうをう。うつこゝ一うつこゝ
うつこゝれのうつこゝ
うつこゝうつこゝ年うつこゝ
うれもうつこゝとうつこゝ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

のち物ことにつけて汚き年十六、七ばかりなる女ども、みだれ髪のいと長き、身丈ばかりみんなうち、三人ばかり出来ぬ。八の宮の御前(おんまえ)、御簾中納言(みすちゅうなごん)の方(かた)、一世の源氏(げんじ)とて、九八男(くはちなん)ども、十四、五ばかりなる女三人ばかり出来ぬ。帥(そち)の君十三、四歳のほどにて、平中納言(へいちゅうなごん)の君とて、十一、二ばかりなる女の子ども、みな、寧(ねい)中納言(ちゅうなごん)の方(かた)の御前(おんまえ)源氏(げんじ)とて、十一、二ばかりなる女の子ども、みな、本(もと)ごとあり。若侍(わかざむらい)のほどにて、十七、八ばかりなるが、三人ばかりぞ、みな、ひとつ色(いろ)の袴(はかま)着(き)て、ひとつ扇(あふぎ)もちて、ひとつ所(ところ)に、うち笑(わら)ひ、ささめきて、うち見(み)やりたるに、いとおもしろし。

二、三人ばかりぞ、あこ君(ぎみ)ども、いとあてやかにうつくしげなり。みな、物(もの)の色(いろ)、にほひ、みな、ひとつ色(いろ)にて、みな、ひとつ扇(あふぎ)もちて、みな、ひとつ所(ところ)に、うち笑(わら)ひ、ささめきて、うち見(み)やりたるに、いとおもしろし。

梅(うめ)の花(はな)笑(え)みの合(あ)はせ

本云、世来之戻錯簡

梅(うめ)の花(はな)笑(え)みの合(あ)はせ

みどりなるべき柳(やなぎ)に、西(にし)なるにてもあるべきものを、来(き)のとぞ云(い)ふ。

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17　　ガラス使用

は
30
17

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

特別
は
30
17

東京圖書館

和書門
和文類
別ろぬ
一の一架
十二號
三の冊

うつほ物語

巻ひろ之上の一

十六

今校本一の巻ノ一

右本十三の巻

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

故楓原文庫納本
検非違使

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

ふくあり。中納言（かせこ）よびむかへ
めしてみるにこれ（こせい）ぞ
えびをもちゐるべきこのうけ
めうってみるにぼうちやうし
ぬべくふくれめうり。ふ
見れそうとみつる紙（上錠）
ふなくいうめうとうけ
をばこれ（銅緒）ぞうけてあん
のむをひ光（上）。こ源（ぶん）れぬ
つみうり。中納言（ちうなごん）みるに。ぜ
うるむ。首（かうべ）ぞ

女おほ〜なるこそ姫
と和名抄にもあり
ちごともり老女
のつとめなり

を。一まのみこそそれ
ふ。このなるみもちるをふくみを
れおのき物むとやをかうん
とくれすくゆきを
女やるそいふくうそ（這）
とな（ゐ）くみうくやうそ。みど
のうくせ給へ。ふ
うくやをむ。おと
やうくうくうそ
うやう。これ（村）

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

のぶやうとうれんぼくやう
人うをみしほうてむ馬
ゆうらうをつうふうあう
そうぬ百さ
ゆれのこまて
ろうとうみ話
ゐすうたまものゆ
そいみうふこ
まうてきれと
とゐなとす。

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

のうひ（香）ひとのいようひろ
てさせ給へ。そこ（そこのかた）より一乃
こゝにぞうしのうちもいかゞ
とりえあるいもうと生そみ給へ。この殿（との）
それめぐりよ。くまふさへ給へと
て。みな家（や）つかうまつりてさうり
ー女ゆるさい。海（うみ）もろよ給
いとゆかくたまへ。姉（あね）ごやいと
和（やわ）らかに。用（もち）ゐさせ給へ。
と此（この）ほどの勢給（せたまふ）ことの
二条（でう）のおほいどのにうつろひ給へ

ふるさとの牧（まき）
のこのもとの始祖（はじめおや）
こそをもとの浪（なみ）
八上（やかみ）の先祖（せんそ）
ひと

それを中納言（ちうなごん）きゝてたまへ
のうき事（こと）なりとまことにさる
やうもあれ。ふ事（こと）みてうち
くさぐさむいなどそれをみる。
これらいろいろ事（こと）あり。それ
のせひやの給（たま）へ。中納言（ちうなごん）
給（たま）へなまめいて。海（うみ）のわた
うちうち給（たま）へ。ものをむまで
く。おいつき給（たま）へ。ものをむまで

始祖

手

八

[illegible]

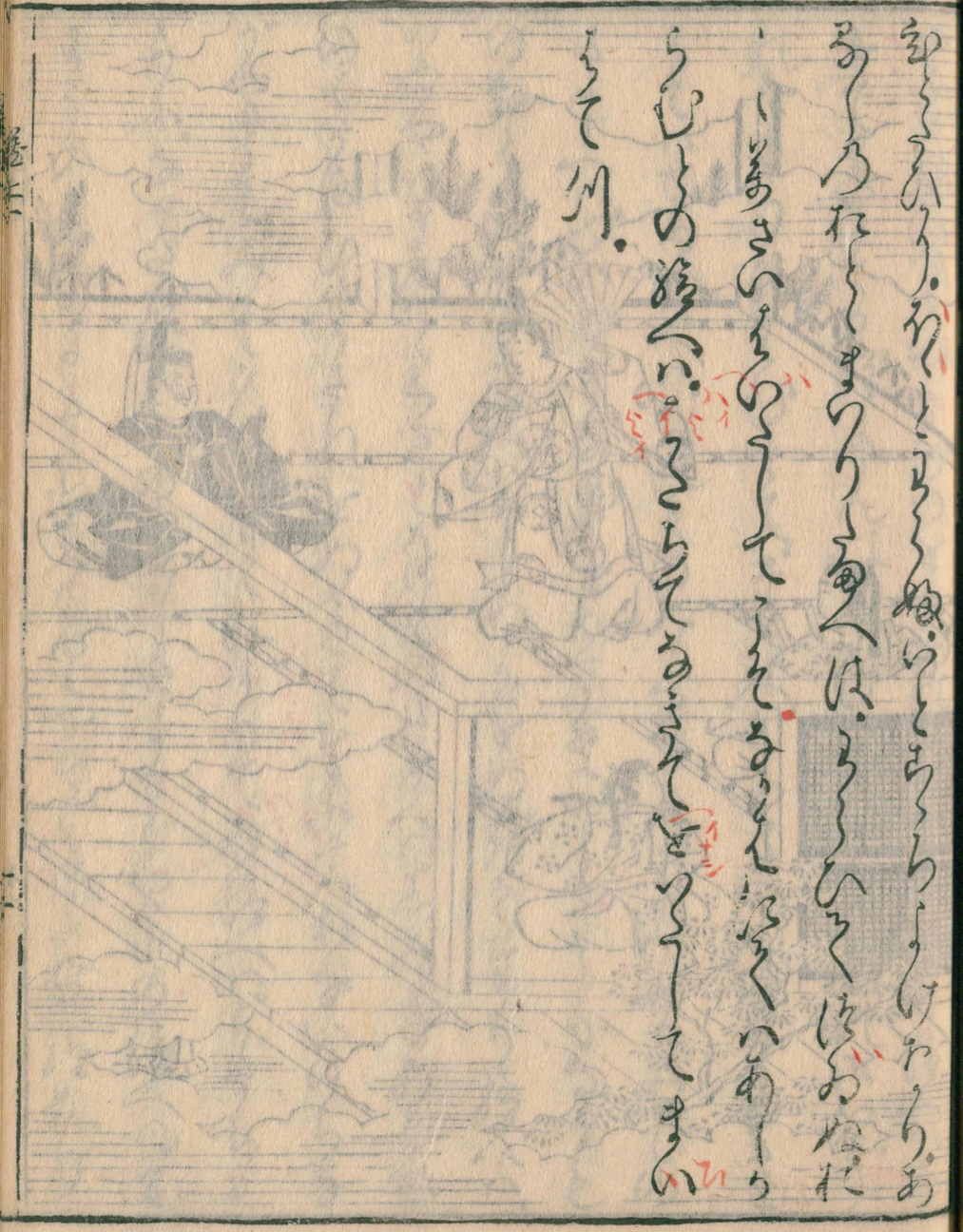
[illegible]

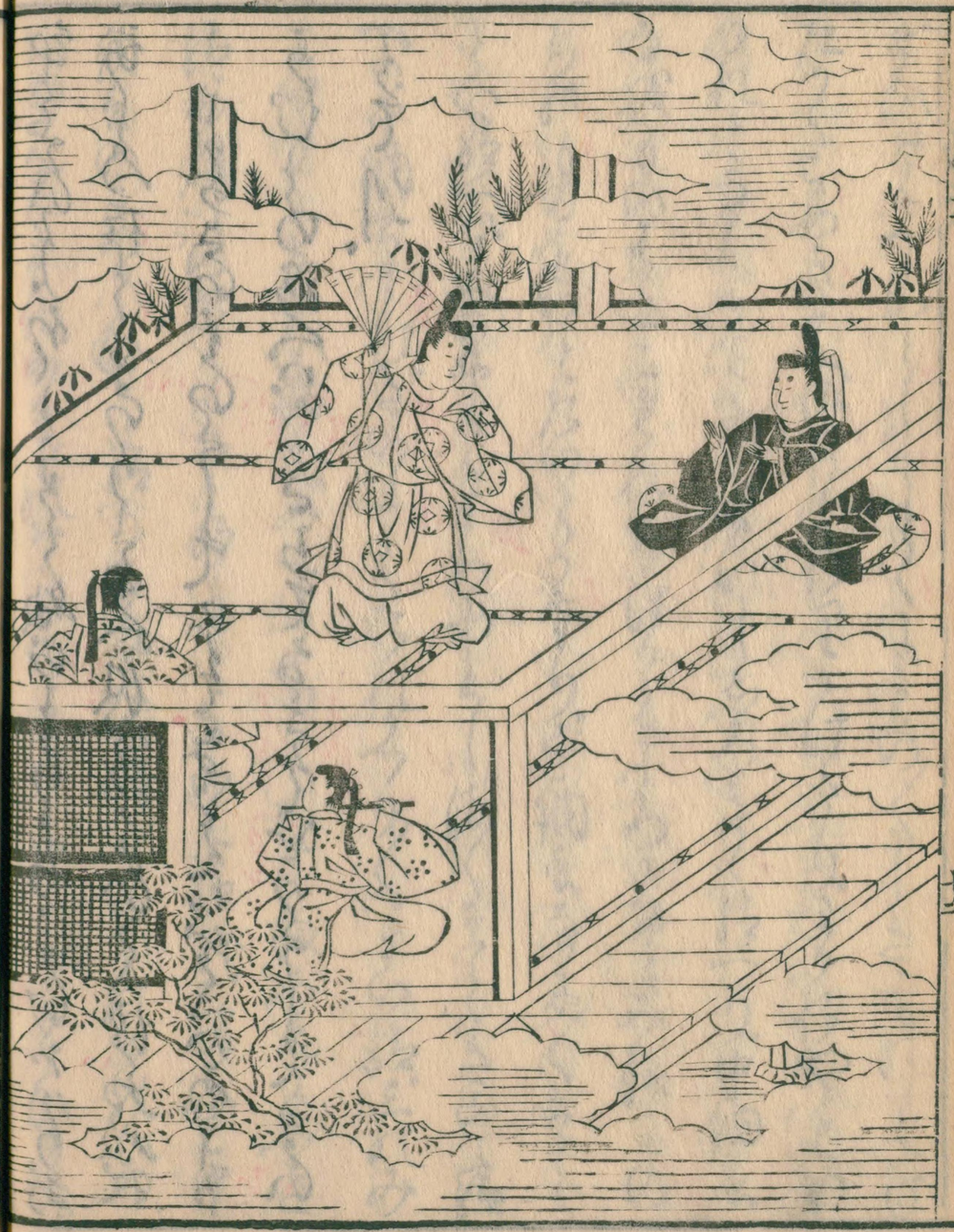
[illegible]

うしのもとゝ(ゐ)車いつくるまりて。
中納言いたるまゝに。
のうちへいれまゐらせ。大きめ
いれてねして。ことゆかりの
よみすまるのせうのようい
しうとめ。ぜんの帳のう
ことゆかりをもてつう
いつくしうかしづくなんとな
もまうらせくおうしのせ
ゆきのさつきみきちかいそのこと
しうは。えれうゝゝのうちのさ
ゆきのうちへいれまゐらせ。
帳のまへによゆきのうちへ中納言
まうらせつゝゆきうちかうもれつゝ
あり殿ゐうちめいうすなるむ
とゐてまうこるれいの中門をさし
うちかゞよ。これはゝ帳めぐりこいたる
や紀伊。中納言もゐうちへいれ
ゝおけくゐやくゝこさゝ
あるやうやゐうちへ女房の
給へいなうてこゝいめをみ
ら。女房ゐうちまうしてさゞ
きやのほそ殿にまうしてゝま

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

萬歲楽





ところゆうなどそうこうの母ぎみもうえ給ふ
ことのくのこゝろにてかわそのをりてこれそ
しそくみそくれいうき給ふ中納言殿のうへ
はいわてまいりてやいとくろうやかの給へ
て清原元りさくでうれいとおもうそ
らいもいもうそうけなるをいとくろうやかの給へ
ま事にそうつもやむことなりひ
て懐
とそろうさいらいれつ右の母くそくして
よう仁そしかでいまはさくみを

のまうくをたまうていぬのまかつみ給う
むこの母くこらもくうれいなくぬ
うのおりみはうやうなうこの給へて大方あん
こいくゆくむこのなだこれそうあるとろこあ
をあとろよう天人のうへ母なけして
むとてゆめゆうこうのうへ母なり
うのおくのをのうとろにえう世うかなり
とうむとろにえう給へまいそぐて二条殿うの
うそうなくそうせておつしうり三のえうり給て中
納言よさ〜殿うまくれいうのおくのおろ〜

くひとのうまりにうこうれこの五
十日あまりにくれおくのやうな
ちれるをなの給
とうつく

この平中物語
一この後ろかふ
つく一平の族あ
る平やさこの平一の
声にうこうそかれ
うに天人のきこうまり
うんとく

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

かやすきぬいに発句
さそう萬葉さかぐ
しかりゆく
かりそめぬれ花
せきもり

さゝや送役

いろよと思ふやうにてりのもとめぐるやまの
ーさゝゝもとをれねんとそのうゝくんら
でありさうやすそくよくもうるとゝこちまさ
つとよろこまいくれさめくしかりぬこくよ
みおてくれぬかこまりてうくのやくよ
さうゝぬことゝいるうさでれおそむれ文るれまよ
思うおくゝ物めつゝくいるんふのうとなるくさ
よい物ゝ称さうやくくさもろつともよとも結
へてるむさまくみとゝ物をこゝ結いるよこれ
うはゝもひろゝくすうおやまいり作ぬこと
うゝおさとをみおをうねくゝゝさらゝ作れる。

つゝおうくゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

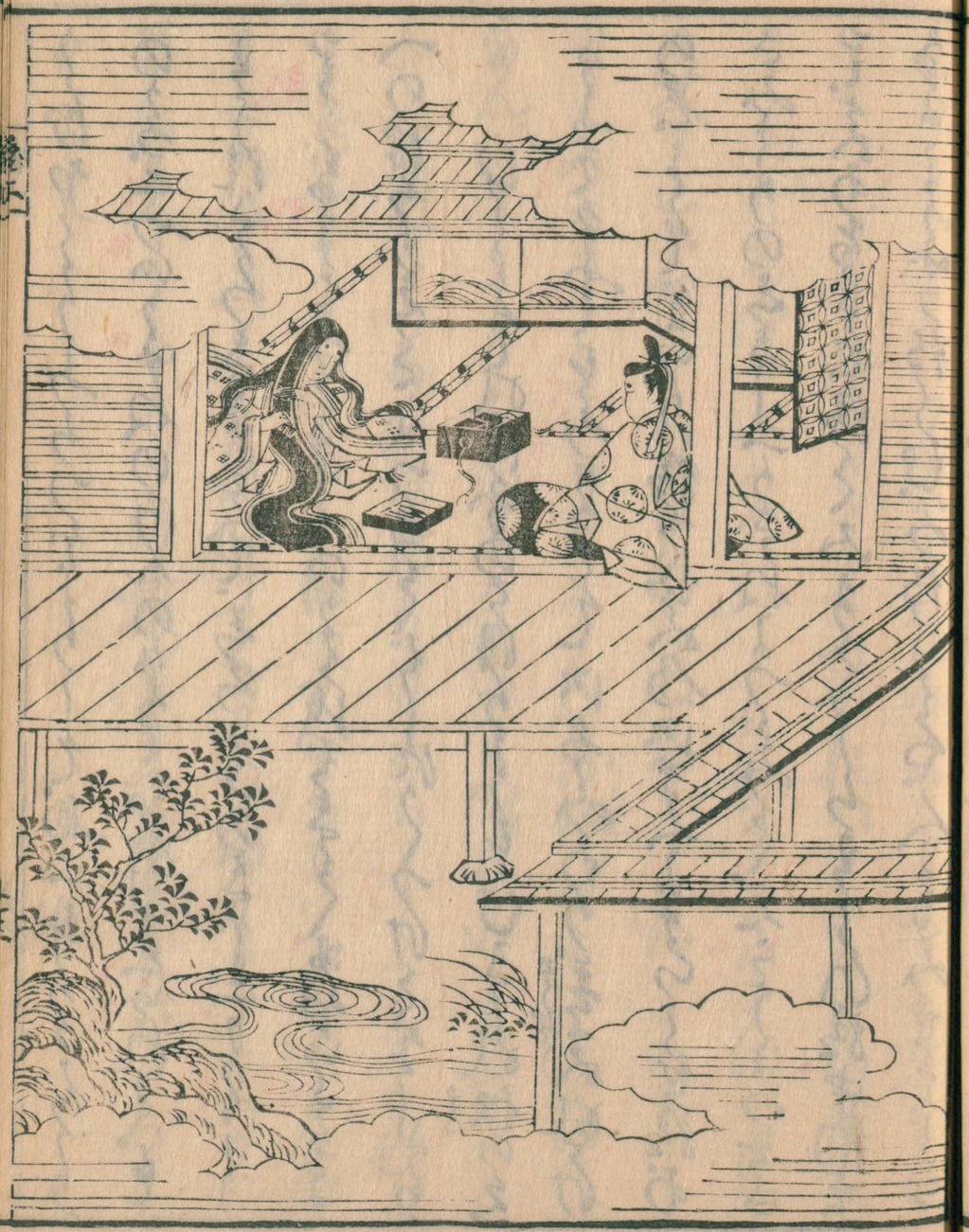
ガラス使用

餉食 和名抄ニ云餉飢四声字苑云餉飢渾七二音示止餉飢作餔見唐韻餅判内麺裏煮之

[illegible]

[illegible]

[illegible]



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

白さもの白粉こ鉛
花とぃり

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

さうくつ、和名抄に靸（カハ）
鞋唐韻曰靸小兒履
也くつ〳〵おほいら
もろ〳〵外出
もちゐる草履
と注したれかよ、
用りくつ又
和名抄に漿鞋あり
もこれなり漿ハ
仙戯又ぞうりとも
ぞうりの名ハ
いつくよりおこれる

そうくつ物こそいともくつ〳〵しけれや、ゆかしからんこと
ものまゝに語りつゞけ外出
もちゐる草履
と注したれかよ、
用りくつ又
和名抄に漿鞋あり
もこれなり漿ハ
仙戯又ぞうりとも
ぞうりの名ハ
いつくよりおこれる
かうしてゐたれハ
なほそれのみ
かの源中納言
君ハ
なほそれのみ
ねそれをも
をもひそれ
あまたの
みりしうちのいまゝ
おりゐるひらき中ねのあそんの
そくみなのもくみく
のみられんそ。かうしの
しやまさきもり。ゆのことそ
うりつゝさくらの
みもろこゝ。聞
のみられんそ。かうしの
しやまさきもり。ゆのことそ
うりつゝさくらの
まもりこゝ。聞
のみられんそ。かうしの
しやまさきもり。ゆのことそ
うりつゝさくらの
まもりこゝ。聞
のみられんそ。かうしの
しやまさきもり。ゆのことそ
うりつゝさくらの
まもりこゝ。聞

さうくつ
金葉集連哥
中納言
もろ日ろ雨ろ
れハ水のいてかハ
川を男のさうく
さうくつ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

あんぶい輪旦
盤渉調の曲 青海波のやうなる曲也

よれるみさのくらゐ
き縹色の濟き濟い
和名抄云縹蘇方功韻
云濟虚伎反俗云岐二
云於利色能又二
訓加毎
汝太　似錦而薄
者也釈名云濟莫
也謂方丈如莫也
らと濟はすやむ
てありめくもと
後人の訓をそよ
まて音うそむ
しるくしるくも
いあり物ともも
かんりくい韓
機のてるるくし

きいけりとそけまん
かけん未
るるるる萬
とくてもそいい

こせむのつきくぐ(衆)ろあそ
楽ふ　(敬ふ)(ふみ)(こと)
をきくしつくもそも。そくさ
くりのく移よあくせくそよ。三
のくろうろうなろうい移り
(ろう)(ろう)　(直)(衣)
うあるるるる移しをる
(ぐ)(ぐ)
給。五つくぐ深ふうやと地ふ
不調
そけりすそくのくうりや
(ミノ)
のえたれなくいてめてくる
(ウド)
(楽)
(漂)
(清下製)
(清)
(ライ)(ナシ)

物語て。左馬くみさうおよ女ひとくうのくうシ(笠)
物。移くういのくるるふ。或ふ
てるれい。いと地りと地り
み給。中務のえはうつくあく
くうよまり給みと六。地ど。
(伯父)
(の清)
(ご性)
(ライ)
(カイ)
(青鈍)
(カ)

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

のはてさくら(桜)ちりてたのみそめ
ちるまでありぬれいとあてよそびはみ
てあるよをもとさくはるの十七たのれ
ともうけりすゑのくもの(莫所知食)
さくらもみぢの秋ともわかぬ宰
ねよもすがらかたりてやこまつのね
のもみぢ(兼)のもさいこれるもの
(并)のまつをうつさくらもみぢ(うつ)
雀(さく)をいつとをき(きん)迄のあくもり
(鳥)
(并)あくをこゝ(ろ)にとゞめてもちの
まよもすがらかたりあかすこのもと
(惺)
(孔)

こゝろよ(肥)みぢのもみぢもよりもこれ
ちりみちてこゝろのまゝにこれをこそ
(強)
(ふ)ゆるしてもちのまよもすがらかたり
(祖)
(ふ)あかすこのもとにこのもとにきの
(綺)
うつくしくもみぢのもとにこのもと
(祖)
ちる(ふ)ゆるしてもちのまよもすがらか
(お)
(ふ)たりあかすこのもとにこのもとに
(よ)
(ふ)きのうつくしくもみぢのもとにこ
(ふ)
(ニナン)
のもとにきのうつくしくもみぢのもと
(ふ)
(ニナン)
にこのもとにきのうつくしくもみぢ
のもとにこのもとにきのうつくしく
もみぢのもとにこのもとにきのうつ
くしくもみぢのもとにこのもとにき
のうつくしくもみぢのもとにこのも
とにきのうつくしくもみぢのもとに
このもとにきのうつくしくもみぢの
もとにこのもとにきのうつくしくも
みぢのもとにこのもとにきのうつく
しくもみぢのもとにこのもとにきの
うつくしくもみぢのもとにこのもと
にきのうつくしくもみぢのもとにこ
のもとにきのうつくしくもみぢのも
とにこのもとにきのうつくしくもみ
ぢのもとにこのもとにきのうつくし
くもみぢのもとにこのもとにきのう
つくしくもみぢのもとにこのもとに
きのうつくしくもみぢのもとにこの
もとにきのうつくしくもみぢのもと

うきまつり。大将いてまつり
つとつかふ。これれてとみ
くもなりよをうれとみ
給れバ嬉をやらめくうれ
まうよさいれ給へいの
れてそうくの給つ
うくもみはそてさきのみ
まろうれてれ給ふなり
いろ給へくまいるまつ
とさつ紀うみやうれたこら
まさ給ふはりやとまつ
おそゆふよくうくさ給
ふのさ将のう紀つくはそ
うりて。ふそをうり給
おそゆふよくうくさ給
ふのさ将のう紀つくはそ
うりて。ふそをうり給
まうはたまふいみそ
ことをれやなる。そなた
ぬ君はくうくものうく
まうの。いまめやう
うむ。くうれ給
らむ。右のやくふうれ給

くまつり給。
まつり給てう
さの大将のう紀つくはそ
うりて。ふそをうり給
おそゆふよくうくさ給
まうはたまふいみそ
ことをれやなる。そなた
ぬ君はくうくものうく
まうの。いまめやう
うむ。くうれ給
らむ。右のやくふうれ給

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

みるへき（この）ことなりけり。（大ぶ）（已）
そね。わらせのそら（にとりのぼり）
つるそらこそ
楽の胡禄るれ（ひ）
ゐくゐ窪孔雀の
舞のすゝ（ま）

（式）（部）
てこのゐそらめ（ぐ）詞と
もゝちたち（ま）魚をま
る相子（ひ）
ひ人ともそのみ
うく孔雀（ひ）
そくしこ（ま）
ことそろ（ま）

（寝）
そらつ（ま）
そね一く。そ（ひ）
こと（酔）
に。（足）
に。れ（ま）
のく（へ）
まよ（へ）
ろりて（ま）
て。み（ま）
ま（へ）
のく。

（如）
（背人）
（泥）
（イナシ）
（ハ）
（ク）

（君大）（女君）（大き）
ゆそそれい。女（ま）
まいぬ

（銀）（魚）（相子）（金）（れ）（有）（ぐ）（ひ）（ぐ）（ま）（ま）（ま

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

和名抄云
四声字苑云帳於
又和名阿
計波利 大帳也

和名抄浅香南列
呉物志云沈香其
次在心白間不甚
堅者置之水中不
浮不沈与水平者
名曰浅香

くやとそいくやる我ことをあるれらみを
おをぐくめづくしのうあるこよ
るうそるれ行りて。うをそ
うくやひまくうけうわ
月うなんりてるひ。よ
いつれをもむともうそやう様一ねり。いて
めぐくうれまう。三のえ
そこ乃れてをそうよ人も思うねれて
こよるうめ。うはりう
みう。やくりの名つとみ
ま。女れのうみうはるうの

うそあうあ。えさくやどうえ
もと。こり法くおつそ
うみのくものとやもせ女法のそこらうし
ねく。めやしのれうくやくみ
ろおそれつて。りの
えをこと地して。おせ
るむとす。思るくさむそうう。人をえあくやうせ
をいおうくみをありるむうそ
てそうあ。女れのいつやくの
ううあ。けふえうくの名しう
つりとうむりんノ名て

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

ものもうしたまふ
ものもうしたまへと
うちうちにもとめよと

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

ゆくての三字六マノアヤリニヤ

いりぬ。えのほそんよいひ白
くてさよいうのつれうくまて瑞瑞
まつりうらのまのうん
のやくいらひ沈香
浅香
うのおそれまくよなを
めよいこそひ
うのうんをうつ
ゆくいの中納言
めくまもうむ。中納言
まだあうのねぐやの
二やみんつさのて
折梶積
おりんみそ中納言のれる。
これせうそこしてなりうを
云のうのまのまうを一弁
ろ。ひうのよかまづいれく。
さいみうう中納言
ろうのこい二ついうをうよみち

てうんやくいうれの給へり
のやくいうをみのあそ
とのおくいこ二ありてうれ
ちのさいのうのまのうねナ
二やみんつさのやのやいこ。
折梶積
おりんみそ中納言のれる。
これせうそこしてなりうを
云のうのまのまうを一弁
ろ。ひうのよかまづいれく。
さいみうう中納言
ろうのこい二ついうをうよみち

くち蜂蜜 和名云おほみつ 音蜜
俗云美知甘飴 野王按蜂百花醞醸所成
○おほみつ 和名千歳蔗汁本艸云千歳蔗汁味甘平無毒 続

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

筋骨長肌肉一名
蔓菜蔬注云
即今之蘭蔓菜蔬
汁是也奥二
音奥音和名阿
末豆良本朝式云
甘葛煎今按
千歳蔓乃
千歳
歳ともろ〳〵冬かれ
ずものこりふゆ
て五年青のま
ま礼冬ても
おりねるもの
歳蔓ハ冬ごと
ともものく本と
そのこ根を
こゝを冬ごとに
きものこ

一ノ巻ノ仁本次ノ
大和のあるじ
うつゝけ
ゝあけり

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

は
30
17

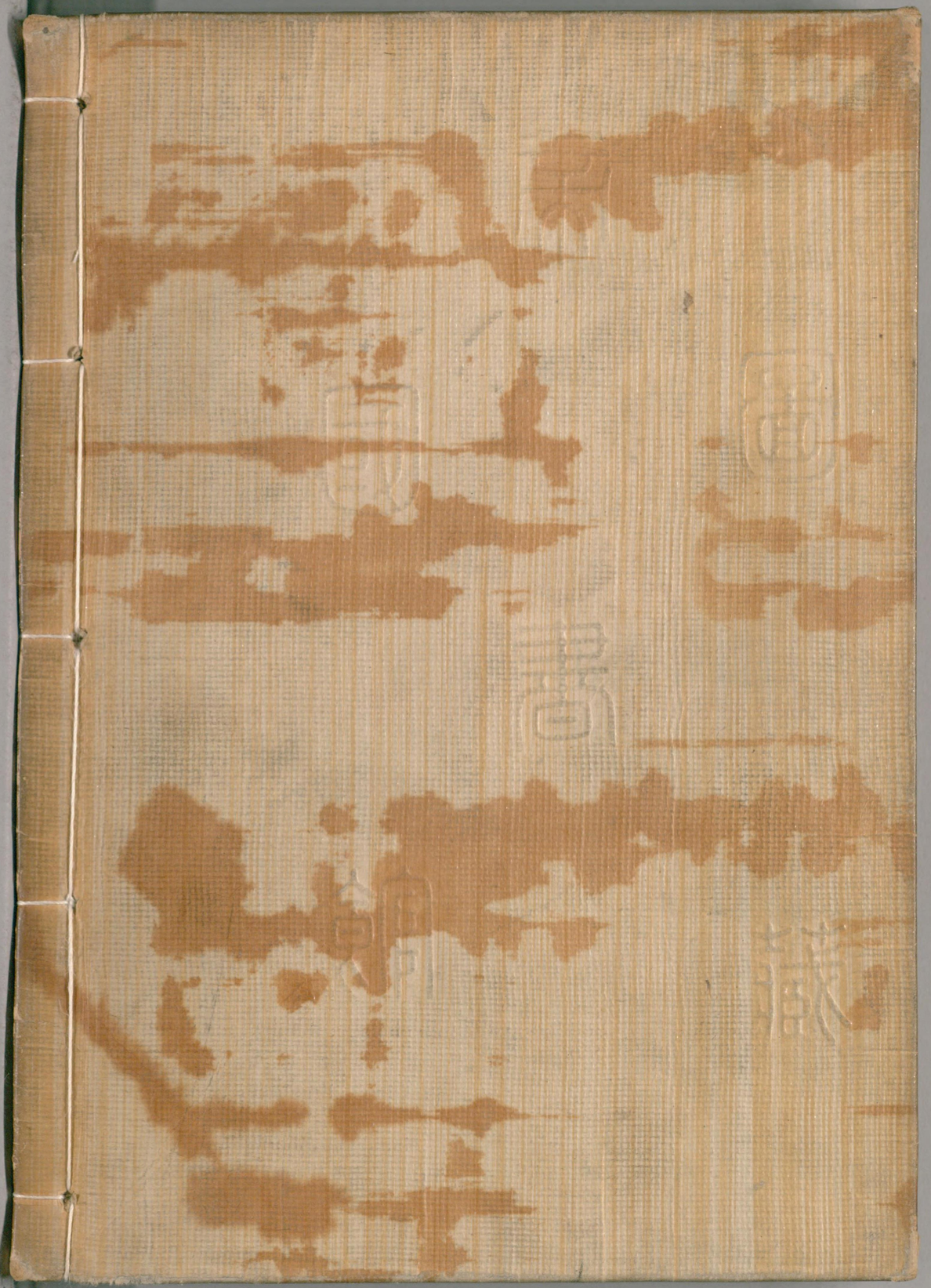
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

I
15
17

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用